

行政視察等報告書

令和元年5月17日

米子市議会議長様

会派名 公明党議員団  
代表者氏名 安田 篤  
提出者氏名 前原 茂



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	安田篤・前原茂・今城雅子・矢田貝香織
期日	令和元年5月13日から令和元年5月15日まで
〔概要〕（年月日・場所・内容）	
5/13 東京都荒川区「子どもの貧困対策について」「ゆいの森あらかわについて」 説明：子育て支援課 伊藤課長 公益財団法人荒川区自治総合研究所 長田所長	
5/14 新潟県三条市「デマンド交通『ひめさゆり』について」 説明：三条市市民部環境課 五十嵐課長補佐 同課生活安全・交通係 長田係長	
5/15 東京都足立区「子どもの貧困対策について」 説明：足立区政策経営部 鳥山担当部長 同部子どもの貧困対策 松本担当係長	
〔所感〕 別紙記載	
経費	旅費等総額 360,813円

## 【所 感】

### ●荒川区 『子どもの貧困対策について』

説明者：子育て支援部参事・子育て支援課 伊藤 節子 課長

公益財団法人荒川区自治総合研究所 長田 七美 所長

荒川区のドメイン『区政は区民を幸せにするシステムである』に集約されているように、区では、行政の究極目的は人々の幸せの実現であるとしている。

荒川区は、子どもの貧困問題、区民の幸福度（GAH）の研究を目的として、平成21年5月に、子どもの貧困問題検討委員会を設置。同10月行政とは独立したシンクタンク「荒川区自治総合研究所」を設立した。

平成23年8月に子ども貧困問題の最終報告書を公表。その中で、42の調査事例（ケーススタディ）を基に、子どもの貧困・社会排除に至るリスクと決定因子、プロセスを明らかにする。決定因子としては、

①保護者の就労状況や就労力 ②保護者の養育状況や養育力 ③世帯に対する支援の有無 などである。これを基に、具体的に担当部署での見直しを行った。妊娠・出産時の母親へのアプローチとして、精神科医への相談体制の充実や育児や家事をサポートするボランティア事業。就学前には、保育相談支援員の増員、2歳児までの在宅育児家庭への民生児童委員の訪問事業。来年度に予定されている区立児童相談所など。また、学齢期においては、SSWの配置と学習支援事業や子どもの居場所づくり、子ども食堂などで協力関係にあるNPOへの支援。全小中学校へのタブレットを一人一台の体制にできるよう整備。また、進学を希望する子どもたちへ区独自の奨学金を設立している。

行政みずから縦割り行政を否定し、部局を超えた連携体制の構築が行われている。それには、現場から少し離れ、独立したシンクタンクの存在が有効であることが理解できた。

●新潟県三条市 『デマンド交通ひめさゆりについて』

説明者：市民部環境課

五十嵐 康之 課長補佐

市民部環境課生活安全・交通係 長田 高志 係長

三条市は平成 17 年の市町村合併により、その面積は 432.01 km<sup>2</sup>と本市の 3 倍以上の広域な市となった。そのため、合併当初より、高齢ドライバー問題、農村部から中心部への公共交通による移動方法が問題となっていた。バス路線は利用客の減少に伴う不採算性が問題になり、廃止や減便など。交通空白区の地域拡大がする。

この問題に対し、デマンド交通による社会実験を平成 20 年度頃より実施。ジャンボタクシー 5 台を利用した運行を行った。しかし、前日予約が面倒であることや単身の利用がしづらい点、狭小な道が多い農村部では通常のセダンタイプの通常のタクシーが好まれるため、平成 23 年度より現在の体制がとられるようになった。タクシー会社 4 社が参加。停留所から停留所の利用。停留所は 6 1 5 か所。停留所の間隔は約 300m。利用の 1 時間前までの予約。一日平均利用者数は現在 296 名。利用者は増加傾向である。タクシー会社では、利用客の増加により効率的な運航が可能になると好意的である。

また、複数乗車を促進することで、市の経費を抑える取り組みを実施。単身で利用するより複数利用で料金の割引を行っている。平成 30 年度の行政負担額は約 4,500 万円となっている。

市民満足度も高く、約 85%以上の市民が満足しているという（市民アンケート）

本市においても、既定の路線バスの維持にとらわれることなく、市民の利便性を考慮した政策が求められている。

今年度、交通政策課を新たに設置し、様々な方法を模索中であるが、地域のニーズを把握した政策が急がれる。特に、タクシーを地域の公共交通としての認識が必要ではないかと思われる。

●足立区 『子どもの貧困対策について』

説明者：政策経営部 子どもの貧困対策担当 鳥山 高章 部長

政策経営部 子どもの貧困対策担当 松本 令子 係長

足立区は、東京 23 区の最北端にあり、53.25 km<sup>2</sup>の面積に 688,512 人が居住する人口密集地域である。東京の下町といわれ、古くからの住民と他の地域から移り住んできた住民、現在人口の 1 割程度の外国人など多種多様な住民が多く共存する地域である。

区では、固定化するマイナスイメージを払拭するため、4つのボトルネック的な課題（治安・学力・健康・貧困の連鎖）を整理し、改善に全力をあげている。

特に貧困の連鎖を断つために、次世代を担う子どもたちへの支援を具体的に行っている。足立区では、18歳未満の生活保護世帯やひとり親家庭が多く、高校中退率も高い状況である。

平成 26 年度から「未来へつなぐあだちプロジェクト」子どもの貧困対策実施計画を策定する。庁内プロジェクトとして、子どもの貧困対策本部を設置。学識経験者を招へいし、検討会議を行っている。

このプロジェクトとしては、以下の 3 点を基本理念としている。

①全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に希望を持てる社会の実現 ②次代の担い手となる子どもたちが「生き抜く力」を持つことで、自分の人生を自ら切り開き、貧困の連鎖に陥らず社会で自立 ③子どもの貧困を経済的な困窮だけで捉えず、社会孤立や健康上の問題など成育環境全般にわたる複合的な課題と捉え、その解決や予防に取り組む。

具体的な支援策として、基礎・基本的な学力の定着を図るため、学校現場に講師（そだち講師、生活指導員）の配置事業を行う。無料の学習塾の設置。

SSW（スクールソーシャルワーカー）の設置。小学校 69 校、中学校 35 校に対して、14 名の SSW を配置。子どもの居場所づくり対策も進める。

また、保護者に対する養育支援として、就労支援体制の充実や相談事業、交流事業に力を入れる。相談事業としては、部局間の相互連携を図るため、「つなぐシート」を活用。つなぐシートより情報の共有化を図る。（相談者が同じ内容を何度も説明する事を防ぐ）

子どもの貧困に関する指標としては、全国学力・学習状況調査の平均正答率  
高校進学率及び進路内訳、高校の中退率、養育困難世帯の発生率・解決率  
歯科健診での虫歯の判定率など 24 の指標で傾向を捉えている。平成 27 年から始まったこのプロジェクトは、確実に改善傾向がみられるようになっている。

とくに、この調査で見えてきた事として、①生活困難世帯の保護者に相談相手がいると子どもの健康リスクが軽減する可能性がある。②子どもが運動習慣・読書習慣を身につけると、逆境を乗り越えようとする力が伸ばせる可能性がある。

本市においても、この足立区のプロジェクトは大変に参考になるものであった。とくに、縦割り行政からの脱却を推し進め、生活困難者や子どもの貧困問題に対して、相談者に寄り添う姿勢と体制づくりが急務ではないかと思われる。

行政視察行程 (会派：公明党議員団 4名)

月 日	行 程	宿 泊 先
5/13 (月)	<p>8:45 10:05 11:10 11:29 11:38 11:56                      米子空港 —— 羽田空港 == == 浜松町駅 == == 日暮里駅                      ANA384便 モノレール JR 山手線内回り</p> <p>荒川区行政視察 午後1時30分から午後3時30分まで                      【調査項目】①子どもの貧困対策について                      ②「ゆいの森あらかわ」について (施設見学)</p> <p>17:19 17:23 17:46 19:31                      日暮里駅 == == 上野駅 == == 燕三条駅                      JR 山手線外回り JR 新幹線とき Max337号</p>	<p>ホテルルーン トイン                      燕三条駅前                      ☎0256-34-9020</p>
5/14 (火)	<p>三条市行政視察 午前10時00分から午後0時00分まで                      【調査項目】三条市デマンド交通「ひめさゆり」について</p> <p>【星食】 13:31 15:22                      燕三条駅 == == 上野駅                      JR 新幹線とき 322号</p>	<p>ホテルサンルート                      “ステラ” 上野                      ☎03-5806-1200</p>
5/15 (水)	<p>9:21 9:37                      上野駅 == == 梅島駅                      東京メトロ日比谷線・南栗橋行</p> <p>足立区行政視察 午前10時00分から午前11時30分まで                      【調査項目】子どもの貧困対策について</p> <p>12:08 12:31 12:36 13:08 14:55 16:15                      梅島駅 == == 人形町駅 == == 羽田空港 —— 米子空港                      東武スカイツリーライン・中目黒行 都営浅草線快特・羽田空港国内線ターミナル行 ANA385便</p>	

旅費計算表

平成31年5月13日 ～ 平成31年5月15日 (2泊3日)

公明党議員団 会派行政視察

東京都荒川区 ・ 新潟県三条市 ・ 東京都足立区

月 日	区間	鉄道路線名	区キ	間数	目的地までのキ数	運賃	グリーン	急行	料 金		宿 泊		料
									別	新幹線	議員1,500円 随員1,100円	甲 14,800円 乙 13,300円	
5/13 (月)	米子空港～羽田空港	ANA				41,580	スーパージョー			随員1,500円 随員1,100円			6,850
	～浜松町駅	モノレール				490							
	～日暮里駅	JR				170							
	日暮里駅～上野駅	JR				5,080							
	～燕三条駅	JR							3,990				
5/14 (火)	燕三条駅～上野駅	JR				5,080					1,500	14,000	
5/15 (水)	上野駅～梅島駅	メトロ				320					1,500		
	梅島駅～人形町駅	東武				350							
	～羽田空港	都営				610							
	～米子空港	ANA											
計	議員 旅 費				87,010	53,680		0	0	7,980	4,500	14,000	6,850
随 行 旅 費					0								

出席 議員 今城雅子、前原 茂、安田 篤、矢田貝香織

議員旅費 87,010 × 4名 = 348,040 円  
 タクシー代 2,530 × 1式 = 2,530 円 (燕三条駅～三条市役所)  
 タクシー代 1,140 × 1式 = 1,140 円 (梅島駅～足立区役所)  
 取扱手数料 540 × 1式 = 540 円  
 お土産代 8,563 × 1式 = 8,563 円 (荒川区、三条市、足立区)  
 旅費総額 360,813 円